

と も に 育 つ
育 む !

なぜなぜ期の
乗り越え方

いやいや期が落ち着いたと思ったら、「なぜ?」「どうして?」の質問攻め! そんな「なぜなぜ期」の乗り越え方を 守安あゆみ先生にお聞きしました。



2〜6歳頃の子とも達は
知りたいことがいっぱい!

「なぜなぜ期」とは、幼い子どもが身の回りのものやできごとについて「なぜ?」「どうして?」と繰り返し質問する時期のこと。心理学的には「質問期」と呼ばれ、だいたい2〜6歳頃といわれています。ヒトの脳は3〜6歳の間に成人の80〜85%まで成長するといわれており、この時期に、子どもは見える世界がどんどん広がりに、言語能力も発達します。さまざまなものやできごとに興味関心が沸き上がるため、親としては、日々子どもから質問攻めにあい、イライラしたり、答えに窮することもあつたりして、なかなか大変な時期でもありますね。

質問攻めの子ともと
上手に関わるためのコツは?

子どもがたくさん質問してくるのは、興味関心が外に向かい、子どもの世界が広がってきた証拠でもあります。子どもが「なんで?」「どうし

て?」と繰り返し聞いてきたら、「おお、今この子の世界はどんどん広がっているぞ」と心の中でつぶやいてみてください。知っていることであればその場で教えてあげればよいですし、知らないことは一緒に調べたり、ママが知らないことは「ごめん、わからないんだ」とありのままの姿を見せてあげること、子どもは安心します。「パパに聞いてみようか」と提案するのも良いでしょう。あまりにもしつこく何度も聞かれると気持ちが悪入ってしまうこともあるので、ママ友と話をしたり、地域の子育てひろばなどに足を運んで話を聞いてもらったりして、ママが一人で抱え込まないことも大切です。

「なぜなぜ期」には個人差も:
内面を豊かにできる環境が大切

何でもかんでも質問攻めの子ともいれば、もともと口数が少ない子や、静かに観察するタイプの子ともいます。「なぜなぜ期」があるかないかは問題ではなく、子どもの内面を豊かにする環境があるかどうかが大切。例えば自然の中には不思議がいっぱいあるので、里山に出かけたり、遠出をしなくても家の周りを散歩して自然に触れることで世界は広がります。ぜひお子さんと一緒に不思議探しをしてみてください。

答えは正解でなくてもOK!
まずは質問を受け止めて

この時期の子ともはまだファンタジーの世界に生きていますので、必ずしも科学的に正しい知識を伝える必要はありません。例えば「なぜ風は吹くの?」と聞かれたら、「風さんはお洗濯を乾かしてくれてるんだよ」「○○ちゃんが書いてくれたから

涼しくしてくれているんだね」などの答えで満足するでしよう。「○○ちゃんはどう思う?」と質問で返すのも良いでしよう。科学的な答えが知りたい子はインターネットや本と一緒に調べるのも良いですね。何度目も同じ質問をされてうんざりすることもあるかもしれませんが、子どもも質問を無視したり、「うるさい」「何度言ったらわかるの」と否定することだけは避けましょう。無視や否定は子どもの自己肯定感を下げてしまいます。子どもは何度も同じ答えが返ってくることで安心感を得ているのです。根気よく答えをあげましょう。

この時期だけのファンタジーを
親子で一緒に楽しんで

子どもの考えた答えは科学的に正しくないこともたくさんありますが、先ほどもお伝えしたように、なぜなぜ期の子ともはファンタジーの世界に生きています。ですから、科学的でなくても、正しくない答えでもよいのです。成長と共に正しい知識は身につけていきますので、「なぜなぜ期」ならではの答えを親子で一緒に楽しんでいただければと思います。「なぜなぜ期」があるうとなかろうと、目の前の子どもをまるごと受け止めて、温かいコミュニケーションをすることで、子どもの心は健やかに成長していくことでしょ。

子どもの好奇心を育てる答え方

- 簡単な質問ならその場ですぐに答える
- インターネットや本と一緒に調べてみる
- 「どうしてだと思っ?」と子どもに質問してみる
- 「パパに聞いてみよう!」とわかる人に聞いてみる
- 忙しい時は「今は忙しいからあとで一緒に考えよう」と正直に伝える



大切なのは
正しい答えではなく、
子どもの質問に
向き合うことです。



教えてくれたのは...

認定NPO法人コクレオの森 副代表理事
守安あゆみ 先生



オルタナティブスクール「菜園こどもの森学園」スタッフ、認定子育てHATマイスター、メンタルファウンデーション認定コーチとして、子育て講座やファンリテーター講座を行う。共著に『みんなで創るミライの学校!』(築地書館)など。

